

令和6年度 校内研究について（3力年の2年次）

令和6年6月10日 研究部

1 研究主題

学習の見通しをもち、主体的に学び合う子どもの育成
～ 少人数学級のよさや授業構想シートを生かした算数科の学習の工夫 ～

2 研究主題のとらえ方

（1）「学習の見通しをもち」とは、

- ガイド役の子どもだけでなく、全員が単元の学習計画やその時間の学習のめあてや流れをつかんで学習に参加している。
- 子ども達が目的やめあてを意識して主体となって授業をリードする場面（個人思考・話し合い等）において、話し合いの進め方を理解し、子ども同士で進めることができる。

（2）「主体的に学び合う」とは、

- 学習課題に対して、自分の考えをもつことができる。
- 自分の考えや思いを、相手意識・目的意識をもって表現する（話す・書く）ことができる。
- 友達の考えをしっかりと聞き、反応を返すことができる。（賛成・反対・質問・付け加え・新しい気付き）
- 学習のめあてに向かって自分で試行錯誤したり、友達と話し合ったりする中で、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

3 研究の目的

学習の見通しをもち、主体的に学び合う子どもを育成するには、どのような学習指導や支援をすればよいのか明らかにしていく。

4 研究仮説

（1）基本仮説

お互いを認め合い、助け合う温かい人間関係を基盤に、児童の実態を的確に把握して一人一人に合った支援をしながら、ガイドを中心にして児童主体の話し合い活動ができるよう工夫すれば、主体的に学び合う子どもが育つであろう。

（2）具体仮説と手立て

- ① 児童の実態を的確に把握して一人一人に合った支援を工夫すれば、自分なりの学びや成長が感じられて、学習意欲や学習の成果が向上するであろう。
 - ア. 児童理解
 - イ. 個別の支援
- ② 児童の実態に合わせて児童主体の話し合いができるように、自分で試行錯誤をしたり、友だちと話し合ったりする中で、考えを深めたり広げたりできるような授業の工夫をすれば、主体的に学び、友達と学び合っって伸びる子が育成されるであろう。

ア. 流れの提示、めあて、まとめ、振り返りの充実

→『めあてと振り返りを意識した授業スタンダード』の活用

イ. 指導形態（ガイド学習）

※ガイドの手引き、ガイドの育成、ずらし、直接指導・間接指導における教師の関わり方

ウ. 伝え方と聴き方のポイントを意識した話し合いの充実

※算数科の考え・伝える方法としての式や図、表、数直線、言葉など様々な伝え方、表現方法

5 研究方法

○各学級における研究授業（全教員）

○授業構想シート「めあてと振り返りを意識した授業スタンダードシート」の活用

6 研究計画

月	研究計画
4月	・市学力調査（4、5年生：国語・算数） ・全国学力調査（6年生：国語・算数） ・児童の実態とつきたい力についての話し合い
5月	・研究主題、研究内容の確認 ・教育指導員による学力向上訪問 ～ 5月29日（水）②【荒瀬教育指導員】 ◎ 全学級算数授業公開 + 協議（校長、研究主任）
6月	・今年度の研究の方向性について確認
7月	・研究授業（ 年 ）
8月	・学力調査結果の分析、・事前研究（ 年算数）
9月	・授業研究（ 年 ）
10月	・授業研究（ 年 ）
11月	・授業研究（ 年 ）
12月	・県学力調査（5、6年生：国語・算数）
1月	
2月	・今年度の研究の反省と来年度の研究の方向性の検討

・同和問題学習（5・6年社会 今年度はなし）